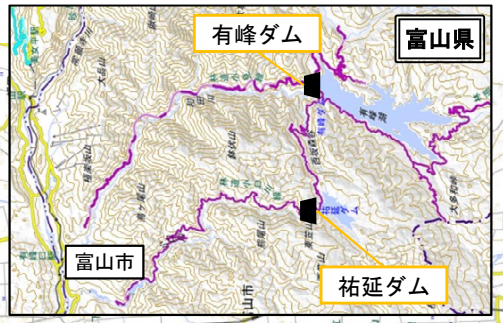
常願寺川水系流域治水プロジェクト【中間とりまとめ】

～急流河川特有の洪水防御と流域治水対策の推進～

○　令和元年東日本台風では、各地で戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したことを踏まえ、常願寺川水系においても、事前防災対策を進める必要があることから、以下の取り組みを実施していくことで、国管理区間においては、戦後最大の昭和44年洪水と同規模の洪水を安全に流し、流域における浸水被害の軽減を図る。

　また、急流河川である常願寺川では、侵食による堤防決壊が想定されるため、侵食対策（急流河川対策）も併せて実施していく。



なめりかわ
滑川市

富山県

かみいち
上市町

とやま
富山市

ふなはし
舟橋村

たてやま
立山町

堤防強化

急流河川対策
（護岸）

河道掘削

堤防整備

常願寺川

■流域における対策

・雨水貯留施設の整備
・利水ダム8ダムにおける事前放流等の実施、体制構築　等
（関係者：国、富山県、北陸電力(株)　等）
・霞堤の機能維持
・準用河川の整備（河道拡幅）　等
※今後、関係機関と連携し対策検討

■ソフト対策

・災害リスクの現地表示、洪水ハザードマップの配布、浸水実績の周知
・避難訓練への住民参加促進
・排水ポンプ車の出動要請の連絡体制整備
・水防災教育（出前講座の活用）、マイ・タイムラインの作成及び普及
・要配慮者施設避難確保計画の作成支援
・災害情報普及支援、浸水被害軽減対策
・水位計・監視カメラの活用　等
※今後、関係機関と連携し対策検討

【位置図】

凡　例

浸水範囲（戦後最大の昭和44年洪水に対する想定氾濫解析）

大臣管理区間

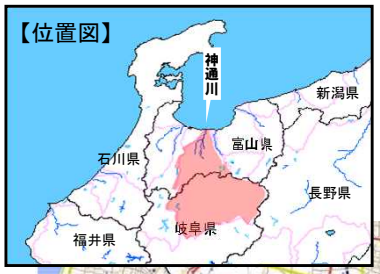
※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

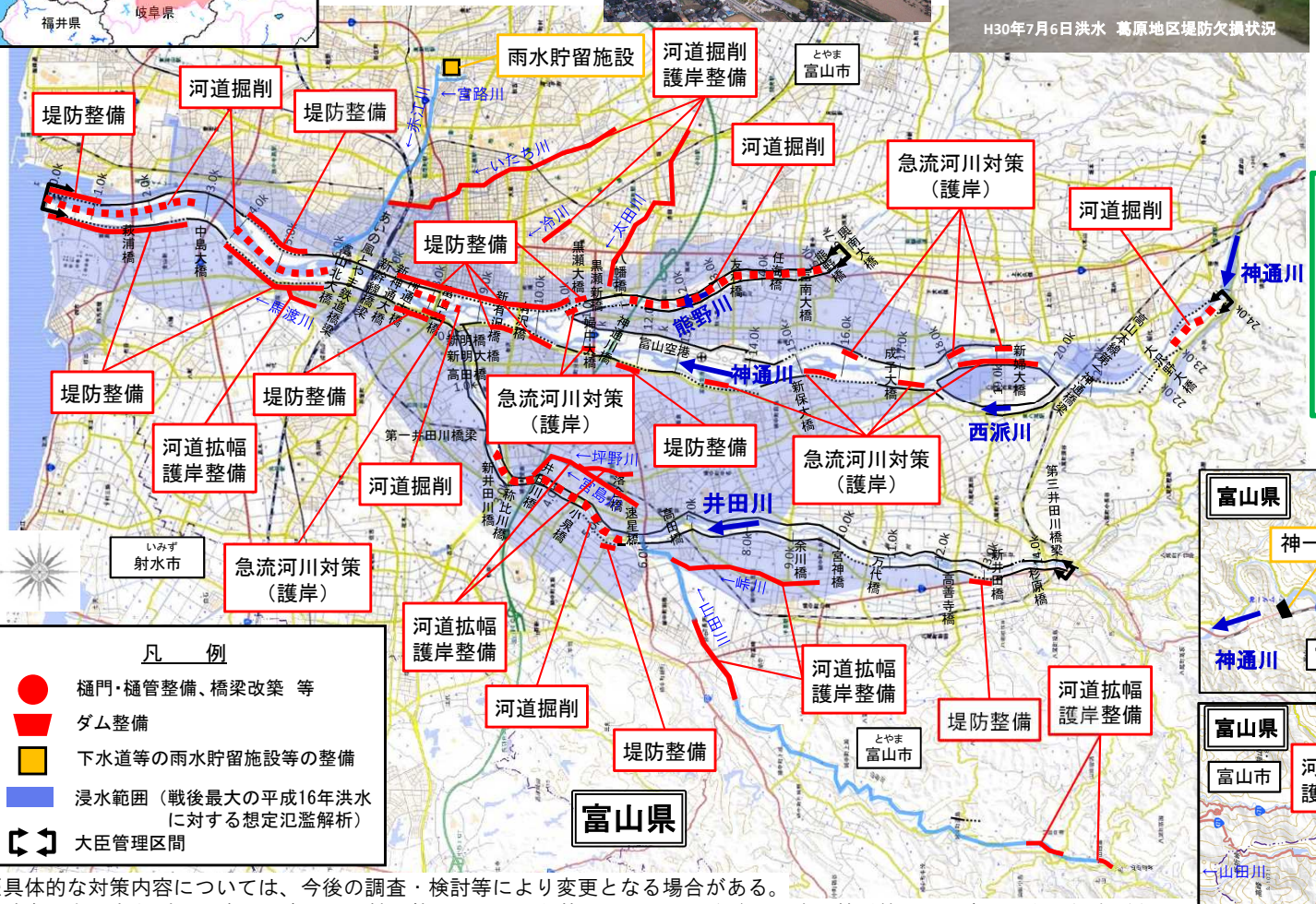
神通川水系流域治水プロジェクト【中間とりまとめ】

～富山市街地を洪水から守るための流域治水対策の推進～

○　令和元年東日本台風では、各地で戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したことを踏まえ、神通川水系においても、事前防災対策を進める必要があることから、以下の取り組みを実施していくことで、国管理区間においては、戦後最大の平成16年洪水と同規模の洪水を安全に流し、流域における浸水被害の軽減を図る。

　また、急流河川である神通川では、侵食による堤防決壊が想定されるため、侵食対策（急流河川対策）も併せて実施していく。



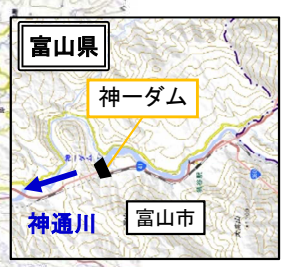


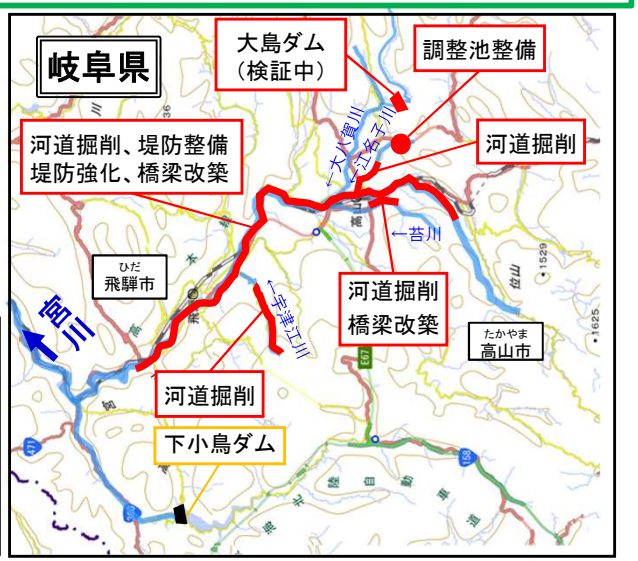
■流域における対策
- ・下水道における排水施設
- ・雨水貯留施設の整備
- ・利水ダム等21ダムにおける事前放流等の実施、体制構築　等
  （関係者：国、富山県、岐阜県、北陸電力(株)、関西電力(株)　等）
- ・霞堤の機能維持
- ・準用河川の河道拡幅　等

※今後、関係機関と連携し対策検討

■ソフト対策
- ・災害リスクの現地表示、洪水ハザードマップの作成・配布、浸水実績の周知
- ・避難訓練への住民参加促進
- ・排水ポンプ車の出動要請の連絡体制整備
- ・水防災教育（出前講座の活用）、マイ・タイムラインの作成及び普及
- ・要配慮者利用施設避難確保計画の作成及び支援
- ・災害情報普及支援、浸水被害軽減対策
- ・水位計・監視カメラの活用　等

※今後、関係機関と連携し対策検討





※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。
※岐阜県内の令和2年7月豪雨災害による被災箇所における対策については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

庄川水系流域治水プロジェクト【中間とりまとめ】

～急流河川における堤防安全度向上と流域治水対策の推進～

○　令和元年東日本台風では、各地で戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したことを踏まえ、庄川水系においても、事前防災対策を進める必要があることから、以下の取り組みを実施していくことで、国管理区間においては、戦後最大の平成16年洪水と同規模の洪水を安全に流し、流域における浸水被害の軽減を図る。
　また、急流河川である庄川では、侵食による堤防決壊が想定されるため、侵食対策（急流河川対策）も併せて実施していく。

■流域における対策
- ・雨水貯留施設の整備
- ・利水ダム等17ダムにおける事前放流等の実施、体制構築　等
  （関係者：国、富山県、岐阜県、関西電力(株)、電源開発(株)　等）
- ・霞堤の機能維持　等

※今後、関係機関と連携し対策検討

■ソフト対策
- ・災害リスクの現地表示、洪水ハザードマップの配布、・浸水実績の周知
- ・避難訓練への住民参加の促進
- ・水防災教育（出前講座の活用）、マイ・タイムラインの作成及び普及
- ・要配慮者施設避難計画確保計画の作成支援
- ・災害情報普及支援、浸水被害軽減対策
- ・水位計・監視カメラの活用　等

※今後、関係機関と連携し対策検討

※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

小矢部川水系流域治水プロジェクト【中間とりまとめ】

～本川・支川一体となった浸水被害解消のための流域治水対策の推進～

○　令和元年東日本台風では、各地で戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したことを踏まえ、小矢部川水系においても、事前防災対策を進める必要があることから、以下の取り組みを実施していくことで、国管理区間においては、戦後最大の平成10年洪水と同規模の洪水を安全に流し、流域における浸水被害の軽減を図る。

凡　例
- 浸水範囲（戦後最大の平成10年洪水に対する想定氾濫解析）
- 大臣管理区間

■流域における対策
- ・雨水貯留施設の整備
- ・利水ダム等6ダムにおける事前放流等の実施、体制構築　等
  （関係者：国、富山県　等）
- ・霞堤の機能維持　等

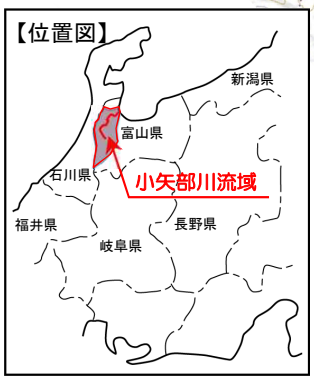
※今後、関係機関と連携し対策検討

■ソフト対策
- ・洪水ハザードマップの配布
- ・避難訓練への住民参加の促進、
- ・水防災教育（出前講座の活用）、マイ・タイムラインの作成及び普及
- ・要配慮者施設避難確保計画の作成支援
- ・災害情報普及支援、浸水被害軽減対策
- ・水位計・監視カメラの活用　等

※今後、関係機関と連携し対策検討

H16年9月21日　洪水状況（半壊家屋1戸,床上浸水52戸,床下浸水674戸,浸水面積267ha）

【位置図】



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。